



10月1日、鳥羽商船高等専門学校のSiraisiLABが第1回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2020で準優勝し、さらにKDDI賞とコニカミノルタ賞を受賞したことを中村市長に報告しました。

鳥羽商船はAI（愛）ウォーターという作物を高品質に効率よく育成するためのAIを使った自動水やりシステムを開発し、その実用性が評価されて受賞となりました。

受賞チームSiraisiLABの中北創太さんは「農業などが担い手不足や技術伝承で問題を抱えていることを受けて、このシステムの開発にいたった。今後も学んだことを活かして地域課題の解決に貢献していきたい」と思いを話してくれました。

## ディープラーニングコンテスト準優勝！



10月6日、市と合同会社DMM.comによる地方創生の推進を図るための包括連携協定のオンライン締結式が行われました。

この協定は、市と同社が連携して双方の保有資源を有効に活用することにより、地方創生や市民サービスの広報を図ることを目的としています。

同社の村中悠介最高執行責任者は「DMMのノウハウや知見を活かして地域のさらなる発展に貢献したい」と話しました。

協定を受けて総務省の「地域おこし企業人交流プログラム」を活用し、同社職員を市へ派遣していただくことでさらなる官民連携の強化を図ります。

## DMM.comと包括連携協定を締結



10月3日・4日に、持続可能な開発目標について学ぶSDGsジュニアキャンプが伊勢志摩地域を会場に開催されました。

キャンプは中日新聞社が主催したもので、鳥羽市を含む中部地方の小学6年生ら約70人が参加しました。2日目に児童らはミキモト真珠島にて海女の実演や真珠博物館を見学し、自然資源の大切さを学びました。

## SDGs2030ジュニアキャンプ開催



10月1日、鳥羽市・漁業と観光の連携促進協議会は「答志島トロさわら宣言」をしました。答志島トロさわらは、答志島と菅島で水揚げされたサワラのうち脂肪含有率が10%を超えるなどの基準を満たしたサワラをブランド化したもので、2018年より出荷されています。

宣言をした同協議会の寺田順三郎会長は「答志島トロさわらは徐々に知名度が上がってきている。鳥羽でトロさわらを食べたいと言ってもらえるよう、各種団体・施設と連携して、さらに盛り上げていきたい」と思いを話してくれました。

## 答志島トロさわら宣言！